

2011年3月11日、東日本大震災により津波で全てを失い、つらい日々を過ごしていた私たちに救援の手を差し伸べてくださったのが、日本聖公会の東北教区が開設した「被災者支援センターしんち」（福島県相馬郡新地町）でした。

その開所式で、教会からスタッフとして来てくださった方のやさしい言葉と手のぬくもりは、今も忘れません。いつの頃からか、私たち新地の住民がお茶を飲みながら気軽に話ができる場として「水曜喫茶」がセンター内にオープンしました。水曜喫茶の日はボランティアの輪が広がり、手芸、映画会、民謡、三味線などいろいろな私たちを楽しませてくれました。

福島・新地

日本聖公会と住民で続ける「水曜喫茶」の集い



コロナ対策のため久々の再開となった水曜喫茶で(10月13日)

この活動は15年6月から日本聖公会の「東北教区東日本大震災支援室」、19年には日本聖公会の「東北教区東日本大震災被災者支援プロジェクト」に受け継がれ、教会のスタッフ2人、地域のスタッフ2人と共にお茶会のお手伝いをさせていただいています。

東北の外では大震災の記憶も薄れていく中、カトリック田園調布教会（東京）のパティシエの方のほか、大学の学生さん・OBの方々から、心

を込めた手作りのケーキやクッキー、また、各地の特産品等が心温まるメッセージを添えられて届きます。離れていても皆さんとつながっていることが支えになっています。お茶会は少ない人数ですが、おしゃべり、体操に歌を歌ったりと、にぎやかです。昔の話、野菜作りのこつ、友達の話など、人生の先輩に聞いて学ぶことはとても大きいものです。

毎回、歌手の松山千春のヒット曲『大空と大地の中で』を最後に歌い、涙を流される原発避難者の方もおられます。私は「まだ終わってはいない！」と、故郷を追われた方の心の痛みを強烈に感じました。

今後も皆さんに寄り添いながら、楽しい集いになるよう活動を支援したいと思います。

水曜喫茶 地域スタッフ

三宅 友子